第３回京都府総合計画策定検討委員会　【議事概要】

１．日　時

令和８年９月７日（月）18:00～19:30

２．開催場所

京都ブライトンホテル　地下１階　英の間

３．出席者

【委　員】山極座長、池坊委員、奥野委員、小畑委員、柴田委員（オンライン）、
薗田委員、時吉委員、中小路委員

【京都府】西脇知事、鈴木副知事、松浦総合政策環境部長、白波瀬総合政策環境部副部長、
米倉総合政策室長、宮田総合政策室企画参事

４．議事内容

○　計画の大筋や方向性はこれで良いと考える。難しい文言ではなく、「安心」や「わくわく」など、府民の誰もがわかりやすい文言が使われている点も評価できる。

○　基本計画は４年間の実行計画だが、大きなスケール感と長期的な視点を持って現実的な問題に向き合とともに、今行っていることやこれから取り組もうとしていることが、将来にどのような影響を与えるのかというビジョンを描きながら、計画を策定していただきたい。

○　施策の実施段階では、コミュニティの希薄化によって情報そのものが届かず施策の恩恵を受けられない人が出てきてしまうと、問題の顕在化の遅れや問題の解決に至らないことが懸念されるため、誰もが恩恵を受けられるように施策を推進していただきたい。

○　将来構想の「国内外を魅了し精神性の宿る京都の営み」（Ｐ３）というフレーズは、言葉の並びに違和感があり、「国内外を魅了する」よりも先に「精神性」が来るのがふさわしいのではないか。

○　基本計画の分野別基本施策 17⑱（P84）に自転車利用の方策があるが、自転車利用においてはヘルメット着用について具体的に明記いただくことで、自転車の安全利用がさらに促進されるのではないか。

○　基本計画の分野別基本施策 17㉚（P85）については、近年、犯罪被害者支援センターの重要性が増す一方で、予算や人員の不足、センターそのものの認知度不足などの課題を感じており、既存のセンター機能の充実や人員体制の強化についても検討をお願いしたい。

○　基本計画の分野別基本施策 11⑲（P52）については、花材に関する方策があることはありがたいが、花材の「ニーズ」を単純な今のトレンドによる需要という意味ではなく、本来の自然環境の中で、あらゆる草木を大切にし、草木の多様性を尊重した上で、文化があるということを踏まえた「ニーズ」と捉えていただきたい。

○ 「わくわくする京都」については、これまでの議論がストーリーとして理解しやすく、府民の皆様にも共感いただきやすいようにまとめていただいており、基盤整備をはじめ各項目で、多様な府民に裨益する取組が整理されており、わかりやすくまとめられていると感じる。

○　「府域の均衡ある発展」は京都府の様々な施策に通じる理念であるが、未来像⑬で北部地域に焦点をあてることは、人口集積地域から離れたエリアと京都市域の関わりや、集積地に大きく貢献してきた北部地域における文化や生活の衰退の危機が特記されており、重要な視点。

○　北部地域が京都市域を、京都市域が北部地域を輝かせているという相互の関係性が重要であり、2040 年を見据え、南海トラフ地震などを想定した場合にも、北部地域は京都における大事な拠点であるため、今回の計画の特徴の一つとして捉えている。

○ これまでの委員会における意見がうまく落とし込まれており、発言した委員の想像以上の中身に仕上げてもらった項目もあり、府民から見てもわかりやすく、説得力がある計画ができつつあるのではないか思う。

○　あたたかい京都の上に、躍動感のある「わくわくする京都」を実現すために、そのもとにある「京都の精神性」や「本質的な力」を軸とした計画となっている。

○　変化が激しい時代において、計画策定もスピード感を持って取り組んでいただいており、実行段階でもスピード感をもって取り組んでいただくとともに、策定後も変化に合わせて柔軟に計画を変更していくことも必要。

○　「京都が実現したい 2040 年の姿」のうち、「はぐくみ」に関する❷に、「学び直し」や「教育」に関するワードがある方がよいのではないか。基本計画に掲げた施策を中心に、学び直しやリカレントという言葉が用いられているが、将来構想にもそのエッセンスを加えた方が、府民の共感を得ることができる。

○　長寿や技術革新が進む社会において、誰もが生涯にわたって能力を発揮するためには、学び直しや世代を超えた教育の機会を的確に提供していることが求められており、一人ひとりの能力が磨かれ交わることで大きな力となることが期待される。その出発点は学び直しであり、その趣旨が伝わるキーワードを盛り込んでいただきたい。

○　未来像⑨に「成長への投資」が、未来像⑫に農林水産業における「高付加価値化」が謳われているが、「生産性向上」の要素も加えるべきではないか。分野別基本施策にはそういった施策も盛り込まれているが、高付加価値化と生産性向上は両輪であり、基本計画の柱となる未来像においてもしっかりとそれを表現した方が府民から見てもわかりやすく、施策の実効性も高まる。

○　外国人材の活躍に向けた教育機会の充実について記載があり、京都は外国人に対しても教育を通じて、受け入れていこうとする姿勢を示している点は、大切な視点であり、うまく実行していただきたい。

○　従来の「府内の均衡ある発展」という考え方にとどまらず、各地域がそれぞれの特性や強みを生かし、自らの地域に誇りを持って発展していく視点が明確に示されていることを評価。

○　計画を実効性あるものとするためには、府民への分かりやすい情報発信と機運醸成を進め、一人ひとりが計画を自分ごととして捉えられるようにすることが重要。

○　行政だけでなく報道機関等も連携しながら、計画の理念や内容を広く発信し、府民の主体的な参画を促していくことが必要。

○　読んでいて自分自身が「わくわく」する項目もあり、例えば、「夜観光」で言えば京都は早い時間に閉まる店舗が多い印象があり、夜の観光スポットが充実することで海外の観光客や宿泊されている人にとってより「わくわくする京都」になるのではないか。

○　未来像①「誰もが地域社会の一員として互いに支え合い、生きがいをもって暮らすことができる社会の実現」は、高齢者への対策が中心と見受けられ、「誰もが」という観点では、次世代の方も関わる方策があるとよいのではないか。

○　未来像②の「ＳＮＳの誤情報」に関連しては、日頃からアプリ等を通じて地域と行政の距離が縮まる取組が重要ではないかと考えており、京都市の防災アプリも市のＨＰへのリンクはあるものの、アプリそのものを開く機会が少なく、日頃からイベント情報等と連携してアプリを開くきっかけを作っておくことで、災害時にも迷わずアクセスすることができるのではないか。

○　また、アプリの活用に関しては、アプリを通じて子育て世代の方々同士の交流ができることも重要ではないかと感じており、加えて、子育て世代だけではなく、これから子育てをする世代がつながることも重要。

○　わくわくできる社会の実現には、その土台となる安心・安全が確保されていることが重要であり、その考え方が将来構想に位置付けられていることは意義深い。

○　京都の強みは、南北に長い地理的特性の中で育まれてきた地域毎の多様な魅力であり、丹後の海・丹波の森・山城の茶畑など、それぞれの地域が特色ある資源や文化を有しており、その多様性を京都の魅力として発信していくことが重要。

○　京都の精神性や歴史、文化、伝統は京都全体に共通する「縦糸」であり、各地域が有する自然や産業、文化などの特色は「横糸」として捉えることができ、共通する価値と地域の多様性が織り重なることで京都の魅力はより豊かなものとなるため、地域毎の個性や多様性を一層重視していくことが重要。

○　気候変動やAIの進展、国際情勢の変化に加え、「社会の分断」についても重要な社

会課題として認識する必要がある。外国人への排他的な動きだけでなく、経済格差や閉塞感を背景とした分断が国内でも顕在化しつつあることに危機感を持っている。

○　こうした状況だからこそ、多様性の尊重や共生、包摂性、支え合い、分かち合いといった価値が求められており、それらは京都の精神性や伝統とも親和性が高く、京都らしい価値として積極的に発信していくべきである。

○　人口減少や担い手不足が進む中では、新たな産業の創出や成長だけでなく、介護や公共交通をはじめとした基礎的な行政サービスを将来にわたって維持していく視点も重要だが、生産年齢人口の減少が続く中、公的サービスの提供体制の確保は大きな課題となっている。

○ これまでの委員会での様々な意見を反映いただき、素晴らしい中間案になったと感じている。とりわけ、少子化対策では、基本計画の未来像③に「男性活躍」など新しい用語を取り入れていただいたことに感謝したい。

○　京都府では、これまでも子育て支援に力を入れて取り組まれてきたが、子育てを控える若者世代の働き方として、男性が育児に参画できない環境が女性へのしわ寄せを生み、ひいては結婚や子育てに後ろ向きになる考えを生んでいるのではないかという課題に対して、今回の中間案では新たな視点を反映いただいたことは評価したい。

○　今回、京都府民の意識調査をもとに定量的な分析をしていただき、「性別による制約」や「自身の能力発揮が十分に活気できないこと」を感じている方がどのような層なのかを明らかにできた。

○　府全体では約５割の人々が、「制約がある」、「能力が発揮できていない」と回答しており、この割合は改善していない。今回の分析の結果をふまえると、とくに「女性」がそのように回答する傾向がある。よって対策のキーワードのひとつは「女性」である。また、役割分業意識が下がっている若い世代も、「性別での制約」を感じており、「能力発揮」の面では、中高年や無職の方が発揮できていないと感じる傾向にあり、そうした層への対応が課題。

○　また、地域毎の分析では、地域間での優位さは明らかではないが、数字の面で性別による制約や能力発揮の制約のどちらにも課題がある地域は丹後と相楽東部。共通して制約を感じているのは、女性や無職の方となっている。今回の中間案ではなくとも、今後は、そういった方々に焦点を当て、地域や性別、年齢層、職業にフォーカスした支援策を検討いただくことを期待したい。

○　「精神性」を計画の中心に据えた考え方は非常に優れた発想であり、精神性は数値化できるものではなく、それによって育まれた文化や伝統、歴史として表出するものであることから、直接的な数値目標としないことにも意義がある。

○　各施策相互の重複や関連性が一目でわかるような図解（ポンチ絵）を作成すると、初めて計画を見る府民の方々にも伝わりやすいのではないか。施策の内容は充実しているため、視覚的に理解しやすくなる構成となるよう工夫していただきたい。

○　府内の各地で自然環境や歴史、伝統が異なり、それぞれ独自のポテンシャルを有していることから、小さな単位でイノベーションを生み出すことが重要であり、地域毎の多様な取組を連関させながら、府全体の精神性につなげる視点が必要。

○　文化やアイデンティティは地域毎に異なり、ときに相互に対立的な意識も存在することから、多様性を尊重しつつ、そこに流れる「京都の精神性」を縦糸として示すことが重要。芸術やものづくり、精神文化など京都の多様な文化資源が繋がり、京都という地域が成り立っていることを明示できるとよいのではないか。

○　芸術分野に関する記述が少ない印象を受ける。小中高段階からアート教育を充実させ、府内の芸術大学などとも連携しながら人材育成につなげる視点や、芸術の価値を府民へ適切に発信することが必要。

○　スポーツ分野では、相撲やフィギュアスケートなどの京都ゆかりのスター選手の誕生や各種競技で日本一になる京都の高校があるなかで、若者が京都にゆかりのあるフィールドで将来活躍したいと思えるようなスポーツ振興に取り組んでいただきたい。

○　現行計画の産業創造リーディングゾーンの考え方はよいものと考えているが、それはどこまで進捗し、今回の産業政策にどのように反映されているのかという観点から次の計画を考えることも重要。計画策定からにおいては、前計画に対してどのように進化しているのかという観点も重要であり、計画の進化が目に見えて説明できると聞いている立場にも感動や共感が得やすくなりよいのではないか。前向きに進化している取組はそれを前面に出していただければと思う。

○　北部地域で顕在化している人口減少や人材不足の課題は、時間差はあっても府内全域で共通して直面する課題であり、将来を見据えた対応を進めていく必要がある。

○　自治体では、公務員の担い手確保、特に技術職や専門職の確保が難しくなっており、市町村間の連携や広域的な協力体制の構築を進めることが重要。

○　京都府と市町村が相互に補完し合いながら行政サービスを維持していく仕組みづくりや、DX を活用した効率的なサービス提供体制が求められており、そのためには、広域自治体である京都府が主導的な役割を果たすことを期待したい。

○　昨年度の数値目標の達成状況だけでなく、最終的な目標設定に対して、これまでの取組がどこまで到達しており、今後、施策面でのプロセスをどのように進めていこうとしているのか、施策展開の順序などを通じて、府民の方に施策の進捗をお示しできるとよりわかりやすくなるのではないか。

○　「誰もが安心してデジタル技術の恩恵を享受できる環境づくり」といった記載があるが、汎用性 AI の普及によって、産業や教育が人ではなく AI に依存する時代が到来することが想定されるため、人と人との交流や人間らしい営みをどのように維持・発展させるかの視点をもって、そういった社会にどのように対応していくのかについても方向性を触れていただきたい。